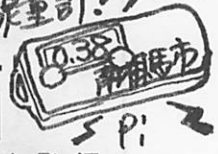
各家庭に、南相馬市から配付された放射線量計！




**はらまち九条の会** **検索** で、活動の様子や会報の全号を見ることができます。


# 九条はらまち

「はらまち九条の会」会報 No.191

2012（平成24）年　7月　1日（日）発行

◆まだ福島第一原発の事故も収束せず、原因も責任も明らかになっていないのに、今日7月1日から福井県の大飯原発が再稼働します。南相馬市民や福島県民の心を逆なでし、侮辱しています。

## 川崎市「たかつ九条の会」会員が、南相馬市を訪問し、激励！

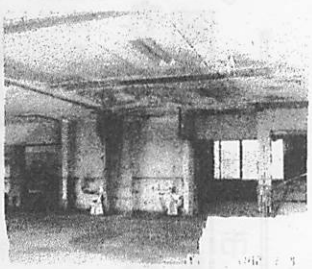
○川崎市高津区の「**たかつ九条の会**」（会員800名・代表山本武彦さん）会員８名は、本会事務局長の山崎が川崎市に避難していることから親交が深まり、６月１９日南相馬市を訪れ、地震や津波被災の様子を視察されました。○午後、市中央図書館で本会の平田会長と懇談し、会への激励金を手渡されました。○翌２０日午前、原発事故で浪江町津島地区から二本松市に避難している被災者たちと懇談し、放射能のことも知らされないまま放置されたり、避難の様子や現在の生活の状況などを直接お聞きしました。

**６月１９日（火）** ＜随所で放射線量の測定＞

**7:00**川崎市高津区溝ノ口を、車２台で出発
～東北高速道中***高い放射線量に驚く。***二本松 IC
～ JR 二本松駅で二上英朗さんが同乗してガイド
～計画避難で無人の飯舘村を通過、***放射線2.7μシーベルト。***

**13:30**南相馬市役所で小高区の志賀さんも同乗してガイド
～錦町の「はらまち九条の会」立看板を見学、***記念撮影。***

～鹿島区の海岸線から南下、渋佐の瓦礫の状況や
原町区津波で被災したヨッシーランドを見学し黙祷する。




***「津波のモニュメントとして保存してはどうか」という意見が多かった。***
～２０㌔圏内の小高区の町並み・JR 小高駅・村上海岸へ。
～小高区の被災家屋を見て、***「低い放射線量なのに単純な同心円で警戒区域に指定され、1年以上の放置で自宅が住めなくなった」と政治判断の誤りを感じる。***

**15:00ごろ**南相馬市原町区に戻り、JR 原ノ町駅前の市中央図書館で開催の「復興ビジョンのための南相馬百年写真館」（企画：二上英朗氏）を見学。
「はらまち九条の会」平田会長と意見交換し懇談。***会への激励金をいただく。***

**16:30ごろ**南相馬市を出発し飯舘村を通過。無人の村なのに***交通量の多さに驚く。***
**18:30**なんとか台風の大雨を免れて、宿泊地二本松市岳温泉「光雲閣」に到着

**６月２０日（水）** **9:00** 岳温泉「光雲閣」を出発

**10:00**から　二本松市の福島県男女共生センターで、高い放射線量の浪江町や浪江町津島地区からの避難者８名との懇談会。
＜避難者は、山崎の浪江高校津島分校の６１歳の教え子たちです＞

●両親は満州の引揚者で入植した。スピーディの発表もなかった。すべてを失って先も見えない。先生、私たちどうすればいいのでしょう。（菅野さん）
●3月11日夜、浪江町の如水会館に双葉町民を避難させるための数十台のバスが来ていて驚いた。浪江町にはその後も何の連絡もなかった。（紺野さん）
●酪農が40年で軌道に乗り息子夫婦も跡を継いでいた。しかし我が子のように可愛いがっていた乳牛を40頭、結局は薬殺した。悔しい。（小曽根さん）
●震災後避難した混乱もあり、87歳の母を急死させてしまった。（広野さん）
●日山（天王山）の麓で酪農をしていたが、すべてだめになった。（鴫原さん）
●震災翌日の12日、津島の実家に浪江の親戚３５人が避難してきて毎食2升半の米を炊いた。仮設住宅がひどく粗末な造りで2年ももたない。（紺野さん）

***避難者の悲惨な状況に励ます言葉もなく、一同涙する場面もあり、ここまで追い込んだ東京電力や国・政府への憤りを新たにしました。***

また、元気で会いましょう！

**11：30**二本松市出発　～**18:00**川崎市高津区溝ノ口に無事帰着

# 被災地を視察

川崎市のたかつ九条の会、南相馬市訪問

百年写真館を見学した、たかつ九条の会員ら

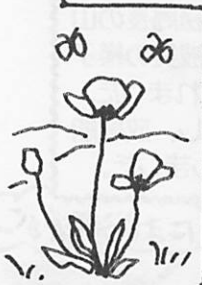
川崎市高津区のたかつ九条の会（山本武彦会長、会員八百人）は十九日、南相馬市を訪問し大震災・原発事故の影響を視察した。

はらまち九条の会（平田慶肇会長、会員四百二十四人）の事務局長で川崎市に避難している山崎健一さんがガイド役を務めた。

原町区渋佐海岸のがれきの山、津波で多くの入所者が犠牲になったヨッシーランド、警戒区域だった小高区の倒壊家屋、村上海岸などを視察、放射線量も測った。市中央図書館では、南相馬市出身の二上英朗さんが企画した「復興のための南相馬百年写真館」を見学、平田会長に激励金を手渡した。

二十日は二本松市の男女共生センターで浪江町津島地区からの避難者八人と懇談した。知らされなかった放射能情報、牛の屠殺、親の急死、先が見えない悩みなど悲惨な避難の状況を聞いた。

たかつ九条の会の一行は視察後「今後も同市の復興を支援したい」と話した。



▲2012年6月27日付『福島民報』相双版より

## 「誰も責任を取らない日本はどうなっているのか」

### 被災地の南相馬市を訪ね、被災者と懇談して思うこと

〇〇川崎市「たかつ九条の会」の皆さんより一言〇〇

〇 20 ㌔圏内に入り、小高地区の死んだ商店街や崩れた屋根＜**写真**＞や駅を見て、こんなことになっても誰も責任を取らないとは、日本は一体どうなっているのでしょう。また二本松で山崎さんの教え子さんたちに避難のお話を伺いました。「これからの暮らしをどうしたらよいか、仮設で不便な生活だが帰ることもできない」静かな語りの中に政府の無策への怒りが伝わってきました。山崎さんが「大事なことは自分で決めるしかない。こんなに良い連れ合いがいるのだから、きっと生活は開けるよ」と、涙を浮かべて語ったことが忘れられません。**（代表・山本武彦さん）**

〇川崎市高津区の溝ノ口を出発する時 0.052 μシーベルト程度だった線量計の数値は、東北自動車道を北上するにつれて上昇し始めた。那須で 0.425、郡山で 0.565、しかしこれは序の口。飯舘村では遂に 1 を超えてしまった。二本松市で、山崎さんの教え子さんたちのリアルな被災体験は、涙なしには聞けなかった。「私たちはどうしたらいいんでしょう」という問いかけに、何も答えられない自分の無力さが情けなかった。やはり、脱原発にむけ川崎の地でがんばる以外にないのだろう。本当に充実した見学と訪問になりました。**（小磯盟四郎さん）**

〇私は被災地の南相馬市へ行ってみて、「頑張りましょう」とは言えない重い気持ちになりました。家族を失った方、家族がばらばらの生活、親たちも自分たちも苦労して築き上げた酪農や田畑をだめにされた憤り、悔しさと怒りを誰にぶつければいいのか！これまでのヒロシマやナガサキの原爆やチェルノブイリなどの放射能事故から国は、何も学んでいないと思います。案内者の山崎さん、二上さん、津波に襲われた自宅を案内して辛かったはずの志賀さんに心より感謝しています。**（速水勝広さん）**

〇私は川崎で大気汚染公害で「ぜん息」になった患者の救済や「公害をなくす」運動をしています。浪江町津島地区の方々と懇談した６月２０日に、国会で「原子力規制委員会を設置する法案」が可決され、東電の事故調査の結果も発表されました。大変がっかりの内容です。でも、原発や地震で被害にあわれた皆さんと話ができ、被害の実態を直接体で感じることが出来ました。３．１１のまま時間が止まってしまっている小高の町も衝撃的でした。

「憲法九条を守ろう」の一点で全国的な運動があったればこそ、「被災地を訪ねよう」の企画が出来ました。個人的には皆さんの生活など現実的な対応については答えを見出せませんが、憲法や九条を生かす運動は「脱原発」へと国民の力の結集が図られると期待をし私も頑張ります。そして「被災者の救済」をという点で「政治」の果たす役割が問われていると感じてきました。**（竹内　勝さん）**

〇南相馬市小高区の「**小高九条の会**」の事務局長**中里範忠さん**も、ご自宅は小高区川房なので埼玉県三郷市で避難生活を送り、集落の情報紙『川房通信』を２９号まで発行され、テレビや新聞や外国メディアでも紹介されています。〇そして中里さんは、これまで何回も被災地の様子を三郷周辺でお話しされていますが、７月３・４日、三郷市の人々24人をマイクロバスで南相馬市に引率し被災の現場を見て頂きました。皆さんは「現地を見て本当に良かった」と話されているそうです。

〇実は「九条の会の」で被災現地を巡る会の先鞭を切ったのは、被災一周年の今年３月10・11日「**相双地区の九条の会**」**共催の「蓮池透講演会＋ジャズヒケシin相双」**です。全国から大勢お招きし、今でも賞賛されています。